

## 第6回辻井重男セキュリティ学生論文賞 セキュリティマネジメント学生賞 審査講評

第6回辻井重男セキュリティ学生論文賞には、全体で13件の応募をいただきました。内訳は、セキュリティマネジメント学生賞に応募の論文が11件、情報セキュリティ学生賞への応募が2件でした。

セキュリティマネジメント学生賞の審査は、この11件を対象として、11名の審査員により1次審査と2次審査とに分けて行われました。

1次審査では、新規性（新規性が論文の中で主張されているか、先行研究等との関係が示されているか）、有効性（現実の問題についての解や効果が期待できるか）、信頼性（論理展開が明快で主張の根拠が明確に示されているか）を中心に辻井賞の趣旨に照らして適切であるかなども加味し、審査員の専門分野との関連性も考慮して評価が行われました。

2次審査では1次審査の評価が高かった論文を中心に候補論文の絞り込みを行いました。いずれの論文も、辻井賞にふさわしい内容で、真剣にかつ熱のこもった審査が行われました。応募いただいた皆様に感謝いたします。

審査の結果、今年度はセキュリティマネジメント学生賞1編に加えて、セキュリティマネジメント学生論文努力賞2編が選ばれました。

### 1. セキュリティマネジメント学生賞

- 主筆者 安藤 駿 さん

（東京電機大学大学院 情報メディア学専攻）

『マイクロブログ中のリスコミュニケーションに関する有益な意見を自動的に抽出手法の提案と評価』

講評：近年テレビ番組やWEB放送などでTwitterなどを用いて視聴者の意見を取得し反映するケースが多い。このような場合にはリアルタイムで有益な意見を抽出し、放送に活かすことが望ましい。未知な話題に関する意見が投稿されることやTwitterなど



に投稿される文章は短いことが多く、従来の手法では有益な意見の分類が難しかった。本論文では、このようなケースにおいても、機械学習において新たな素性を用いることにより、高い精度で有益情報を分類することを可能としている。本論文は、広く普及した Twitter などの情報を有効活用するために新たな手法を開発しており、現実の問題を取り上げてその具体的な解決策を研究している。また、実証的なデータを使って実験しており論理的である。本論文は新規性、有効性及び信頼性について優れていることから、セキュリティマネジメント学生賞にふさわしい。

## 2. セキュリティマネジメント学生論文努力賞

- 主筆者 小林 直樹 さん

(東京電機大学大学院 情報メディア学専攻)

『証拠性保全のための安全で効率的なログ署名方式の提案と評価』

講評： 個人情報扱うシステムの監視・監査では、個人情報のプライバシー保護と監査のための透明性確保の両

立が重要な技術課題になっている。本論文では、共通番号制度を例として、プライバシーと透明性を維持しながら、個人情報の流通ログの正当性を保証する手法を提案している。従来技術である分割署名、ブロック署名、ヒステリシス署名の長所・短所を明らかにした上で、分割署名とヒステリシス署名の併用方式を提案し、性能シミュレーションによって併用方式の優位性を明らかにしている。時宜を得た研究であり、技術的な掘り下げや実用性の検討も充分であることから、努力賞にふさわしい。



- 主筆者 小坂 勇太 さん

(工学院大学 情報学部)

『青少年において情報モラルを向上させる教育内容の検討』

講評： 今日、スマホの利用を巡るセキュリティ対策については、技術的・管理的対策だけでなく、それらの根底にあるべき情報モラル教育、しかも青少年期からの意識付けの必要性について検討することはきわめて重要である。本論文は、この点に着目し、青少年における情報モラル教育の方針や授業内容の

格差原因、さらには青少年の危機回避能力といった、今後の情報モラル教育を議論するために有益な分析結果をアンケート調査によって明らかにしている。論理展開や分析の粗さ



など学術論文としての未熟さは残るが、おそらく技術的・管理的対策よりも難しく、かつより根本的な情報モラル教育問題に果敢に取り組もうとする姿勢、さらには教育内容の地域間格差等、社会全体としてのモラル教育問題を分析・議論するための素材提供を行おうと努力している点は、辻井賞の趣旨からして評価に値するものである。

セキュリティマネジメント学生賞は、賞状に加えて賞金 10 万円が、セキュリティマネジメント学生論文努力賞は、賞状に加えて本学会の全国大会並びに学術講演会の招待券が授与されました。

受賞された皆様、おめでとうございます。